

第26号  
2010.6 発行

## 巻頭言

理事長 児島 百代

鎌倉合唱連盟の皆様、愛する鎌倉の音楽の勢いを示すかのように声高らかに歌い上げて下さっておりがとうございませう。

昨年十一月には関係合唱団が合同で企画して下さいました私の喜寿演奏会に多数お見えいただき、温かな拍手で「年令に負けるな!!」というお励ましを感じて心の底から感動いたしました。

しかし、年が明けてから鎌倉コールの指揮者坂井雅澄氏の訃報に接し、合唱連盟にとっても私個人にとっても大きな悲しみであります。連盟創立当初からの「鎌倉コール」で故前田幸市郎氏のあとを受けて指揮者として活躍され、車椅子になられてからもいつも明るく元気に指揮されるお姿を忘れることが出来ません。私個人としては、東京芸大の一年の時から同級生として(当時坂井氏は横浜国大で選ばれて委託学生として芸大

に在籍された)日々共に学生生活を送った友人でありました。卒業後は北鎌倉女子学園の教諭として、坂井氏は関東学院六浦中高の教諭として高校音楽研究会でお会いしずっと親しくおつき合いいただけていました。まだまだ共に音楽談義をさせて欲しかったです。心からご冥福をお祈りいたします。

## ハモれる幸せ

副理事長 佐藤 ゆり

今年もモンサンミッシェルでミサに参加することができた。神父様とシスターが7人ぐらいつつで、すべての祈りが歌で進められる。昨年は、先唱は一人のシスターだったのが、今年はシスターの二重唱だった。ぴつたり寄り添った二声の後に濃厚な混声四部が続く。先唱は音も取らずに完璧な三度でハモる。まるで一つの楽器のようである。人間の声はここまで一致した響きを作ることが出来るのか。これが一つの楽器から出ているのではなく、二人の異なる人格の人

間から出ていることに更に歌うことの素晴らしさを感じた。

ドイツの発声学の権威、フスラー先生は「ヒトは囀る動物である」と言っている。私の発声の先生は、フスラー先生から免許皆伝を受けた方であった。『いかに自然に囀るか』が勉強の中心であった。ある時は私に質問をした。「体は年々変わっていきます。先生のお考えになる発声の出来上がりとはどのようなことでしょうか」答えは「心の映る声」であった。囀る動物はいても、ハモれる動物はいないのではないだろうか。小鳥たちは上手に囀るが意志を持ってハモつてはいなさそうだ。ヒトだけが出来るハモるといふ妙技。合唱のできる私たちの幸せを大切にしたい。

## 鎌倉グリークラブのこと

副理事長 丸山 孝之

一九九三年(平成五年)十二月十九日、第三十五回市民合唱祭が、鎌倉の芸術文化の拠点として同年十月に開館した鎌倉芸術館で開催された。

これを記念し、特別企画として合唱連盟加盟各団から参加した女声合同合唱と、混声合唱団の有志により臨時に結成された男声合唱

団「鎌倉グリークラブ」が特別演奏を行った。

当時は合唱連盟加盟団には男声合唱団は無く、一部の混声合唱団の中で男声合唱を楽しんでいる状況であった。この特別企画を契機に、「鎌倉グリークラブ」を続けたいという希望が多く、合唱連盟も市民合唱祭の趣旨に沿うものとして、全面的にバックアップすることとし、毎年市民合唱祭に限り、一般市民の有志の方の参加も募って継続することとなった。以来二〇〇五年(平成十七年)第四十七回市民合唱祭まで十三回連続して出演し、男声合唱ならではの素晴らしいハーモニーを芸術館に響かせて来た。

鎌倉グリークラブの運営は、幹事となった合唱団が曲目を選定、練習場所を確保した上で各混声(男声)合唱団に参加の呼びかけを行う。練習は約二ヶ月間、七、八回行い本番に臨んだ。各団の定期練習の合間を縫っての練習だが、男声合唱を歌いたいという情熱の下に集まった男達は、短期間の練習にも拘わらず毎回素晴らしい仕上がりで、市民合唱祭を盛り上げた。

その後公民館利用の有料化や合唱祭への出演料負担、更に指導者への謝礼等の問題が出て、二〇〇六年には出演を中断せざるを得なくなつた。二〇〇七年、二〇〇八年は団員指揮者のボランテアで再び出演することが出来、特に二〇〇八年は第五十回の節目を迎えた市民合唱祭で、通算出演回数も十五回に達した。

この間合唱連盟に加盟する男声合唱団は二団体(今年から三団体)混声合唱団は十二団体と増え市民合唱祭への出演団も増加している状況や、幹事団の負担等も考慮した結果、長年に亘る活動で「鎌倉グリークラブ」としての使命も十二分に果たしたものと考えて、二〇〇九年からはその活動を休止する事とした。

長年に亘り持ち回りで幹事を引き受けて下さつた各団、ボランテアで指揮・ピアノを引き受けて下さつた皆様には改めて感謝申し上げる次第である。

## 鎌倉合唱連盟定期演奏会

(講師講評・各団ミニ講評)

女声合唱団ラルゴ 遠藤 圭子

毎年、鎌倉合唱連盟の定期演奏会に出演させていただき、私ども

の団の演奏も含め、楽しみにしております。平成二十一年は、新実徳英先生に演奏後、直に、マイクで講評を伺うということでした。講評の内容は、演奏の感想の他、衣裳のこと、指揮者について、なごやかなお話で、演奏をねぎらつての講評に尽きる感がありました。また、各団からのミニ講評は、自分達の気がつかなかつた点でのアドバイスや感想、そして讃めていただいた点は、団員一同、喜び嬉しく思いました。

鎌倉合唱連盟主催の定期演奏会・合唱祭は、多くの合唱団が参加しているので、合唱団に入団したいが迷っている方には、とても良い機会でもあると思います。定期演奏会の演奏を聴いて、入団した方もいます。回数を重ねるごとにさらなる練習を積み、表現力豊かな、厚みのある合唱をめざしていきたいと思ひます。

## 講評について

鎌倉女声コール 笹原 悦子

初めて講師の先生と指揮者との対話形式の講評と言うことで、その場で指導者と講師の先生とのやりとりを聞いて、日頃直されてい

る点を指摘されたりすると、一瞬自責の念に駆られるのですが、それでも文章では表わせないユーモアのある講評だったり、他の団の講評を聞く事が出来たり、良い点もあつたと思ひましたが、これを限られた時間内で進行させるのは大変だったのでないかと思ひました。役員の皆様の御苦勞には、心より感謝致しております。

## 市民合唱祭について

北鎌倉女声合唱団 谷本 麻衣

私の家族はみんな、音楽が大好きです。私も、妹二人も合唱と共に育ちました。私と妹は違う団に入っていたので、母や父、祖父母は市民合唱祭の日は大忙しでした。演奏会の後はいつも、様々な合唱団の演奏について感想や、素晴らしいところを、食事をしながら長々と話しています。家族団らん、私にとって大切な、大好きな時間です。

皆様の合唱祭の楽しみは何でしょうか? ホールで声を響かすことはもちろんですが、それだけでなく様々な合唱団の変化や良さに気づき、それについて話す時間も是非大切にしたいと思ひます。

大きく立派な鎌倉芸術館を、お客様で埋めるのは容易なことではないと思ひます。役員の皆様のお力で練習時間も本番も、予定通りに進む合唱祭、目当ての合唱団を聴くことは簡単です。お気に入り合唱団を一つでも多く見つけて、毎回欠かさず聴いてみて下さい。ファンクラブに入つたつもりで、応援し、良さを伝えひろめて下さい。

同じ鎌倉で活動する仲間です。演奏会の話題を共有し、知人を増やし、少しでも音楽によって人生を楽しんで欲しいです。

## 聴衆について

コール・モア 前田 光子

去年十一月の合唱祭で私達の順番で舞台上つた所、会場はガラガラ、聴衆のあまりの少なさに驚きただぐ、びっくりいたしました。なぜか? と考えましたら、声出しの準備等で出番の六、七団体前位から席を立ち「聴きたい」と

思う団の演奏も聴けず、廊下ですーっと待たされていました。以前は自分達の出番が来ると観客席の下手から舞台上り、終ると上手から降りてすぐ着席して次の団の

演奏を聴けた覚えがあります。折角の合唱祭ですから衣装よりも「歌」を重点に置いて、廊下での長時間待機をやめ、観客席からの舞台への移動が一番望ましいと思います。他団の演奏を聴くのも勉強、アドバイスを頂くのも自分達の為になります。声出し↓待機↓本番のやり繰りが大変という事はお察しします。声出しの代わりにプログラムの途中で一曲全員合唱は如何でしょうか？

ガラガラの会場では聴いて頂く励みもないし、大ホールで行う意味がないと思います。むしろ会場の外で歌ったら、沢山の通行人の方々が聴いてくれるかも知れませんか？御検討よろしく願います。

### 鎌倉合唱連盟音楽講座の感想

フラウエンコア・ヴォンネ 後藤 公子

二〇〇九年六月一日午後七時より鎌倉生涯学習センターホールでルネサンス音楽史ご専攻の金澤正剛先生による講演会がありました。講演の内容は厳密に考えると、とても難解の分野のように思われましたが、金澤先生の柔らかいお話しぶりで、なんだか解ったような

気がしてしまいました。「ふーん、

合唱の源は教会の聖歌なのか、十二世紀頃からポリフォニー（複数の旋律）が歌われて来て……という合唱の歴史を聴きながら、四角と菱形の音符で四本線の楽譜の「アヴェマリア」を実際に歌ってみたりしているうちに、あつという間に時間が過ぎてしまいました。「一晚だけの音大生」になつた気分です。帰路は大満足。浅い教養がグラム位重くなつたかな？ そんな風に思えた・大変勉強になつた音楽講座でした。アンケートによりますと、九七パーセントの人々がまた先生のお話を伺いたいとのこと。私もその一人です。この講座を企画して下さいました理事の方々、ほんとうにありがとうございました。

### 金澤先生音楽講座を聴講して

細村 和子

昨年六月一日に鎌倉生涯学習センターホールで開催されました。内容は合唱の歴史の標題の下に、グレゴリオ聖歌とはどんな歌？どんな楽譜？そして単旋律から多旋律への推移、ポリフォニー、ホモフォニー、アカペラって何？と言

う内容の講義でした。

ローマ聖歌（グレゴリオ聖歌）は七七〇年頃からグレゴリウス一世にちなみ、グレゴリオ聖歌とよぶ習慣が生じ、その大部分はラテン語聖書からなる歌詞で、全音階的な教会旋律法に基づいて歌われる単声聖歌であつたといわれています。又私達が、アカペラと言っている語義は本来（礼拝堂風に）という意味を持ち、無伴奏の声のみの編成、演奏でパレストリーナに代表される声楽対位様式を意味する等々……。大変有意義な講義内容でした。受講する前は、何となく地味な内容だし……と、言う気持ちも少しあつたのですが、始めてみるとあつという間の時間でした。そしてまだくもつと続きが聴きたい気持と、得をした気分になりました。

### 児島先生喜寿演奏会について

クール百音 松田 雪

十一月二十一日、鎌倉芸術館において児島百代先生の喜寿記念演奏会が開かれた。演奏会は出演三団体、総勢百名を越す団員による「メサイア」から始まった。第二部は大船混声合唱団のミュージカ

ル、先生の朗読とともに西鎌倉混声コーラスの「民話」、そしてクール百音の「遠い世界に」と、各団がそれぞれのハーモニーを奏でる四部構成だつた。

「遠い世界に」はご自身の詩による、女声のための組曲。十代の秋に芸大の庭で作られたという「落日」など、先生がかつて切り取られた風景が、新進気鋭の作曲家・武智由香さんによる美しい旋律と共に蘇るようだった。繊細な響きを作り上げる為、本番直前まで調整し、全曲初演を遂げた。アンコールの「美しく青きドナウ」の全員合唱には児島先生と演奏会を支える方々の想いが会場いっぱいになり、あたたかな拍手が鳴り響いた。先生の穏やかな笑顔が、お客様一人ひとりに伝わるような演奏会だつたらう。コーラスの素晴らしいさを沢山のの人に教え、演奏会直前に左手を骨折されたながらも、情熱と共に終演を迎えられた児島先生へ、感謝と共に心よりのお祝いが出来た演奏会だつた。



# 平成二十二年事業計画について

二〇一〇年度(平成二十二年)年次総会が一月二十六日に開催され、平成二十一年度事業報告、会計報告及び平成二十二年度の事業計画、会計予算が全員賛成で可決されました。

本号ではその内の平成二十二年事業計画の一部をお知らせします。各団の活動計画の一助となれば幸いです。

五月十八日(火)第四十六回合唱連盟定期演奏会のための代表者会

出演順の決定、第二回音楽講座のチケット配布他

五月二十四日(月)合唱連盟主催による金澤正剛先生の第二回講座

六月二十二日(火)第四十六回合唱連盟定期演奏会のための準備会

参加費の徴収、演奏会当日の打合せ、座席表配布

機関誌「えっせんす」の配布

七月三日(土)第四十六回合唱連盟定期演奏会・芸術館大ホール

新実徳英先生に講師を依頼

七月中旬 定期演奏会の反省会の実施

九月中旬 第五十二回鎌倉市民合唱祭のための代表者会

出演順の決定

十月中旬 第五十二回鎌倉市民合唱祭のための準備会

参加費納入、合唱祭当日の打合せ

十一月十四日(日)第五十二回鎌倉市民合唱祭・芸術館大ホール

## 加盟各団の活動状況

ジュニア合唱団なきさ道

平成二十二年九月四日

第七回定期演奏会

鎌倉芸術館大ホール

十二月十二日

白いうた青い歌フェスティバル

ルイン鎌倉

鎌倉芸術館大ホール

西鎌倉混声コーラス

十一月二十一日

第七回定期演奏会

鎌倉芸術館大ホール

女声合唱団ミモザの会

平成二十三年一月二十九日

第七回定期演奏会

鎌倉芸術館

大船混声合唱団

平成二十三年四月十日

第十三回定期演奏会

鎌倉芸術館大ホール

女声合唱団「松」

八月七日

マーラー第三番(フィルハモ

ニツクアンサンブル管弦楽団)

サントリーホール

十一月三十日

VPP合同演奏会

みなとみらい大ホール

## 新規加盟団体の紹介

エルダー泉

鎌倉今泉台に居住している人た

ちを中心とした男声コーラスで名称は「エルダー泉」と言い、発足は平成十九年八月で、それ以前町の女声コーラスに男声加わって一緒に歌ったことが、この会の成立のきっかけとなっています。

現在、金谷良三さんのご指導と吉田さつきさんのピアノで毎週木曜日、二時間練習しています。会員は20名ほどで、ベテランの合唱経験者が数名、大半は初心者です。コーラスはまだまだ未熟ですが熟年パワーを発揮して頑張っています。いつか美しいコーラスを聴衆と共に楽しむことが出来ればこんなに嬉しいことはありません。そのため努力を続けていきたいと思っています。

## 編集後記

第二十六回えっせんすを、お届けします。昨今、政治にも期待が持てず、暗いニュースばかりの毎日ですが、せめて私達は心一つにして、美しいハーモニーを響かせて、穏やかな日々を送りたいと思います。

細村 和子

えっせんす 第二十六号

二〇一〇年六月 発行

発行責任者

鎌倉合唱連盟理事長

児島 百代

印刷所 F・フタバヤ